

## (一財)語学教育研究所 2021 年度講習会 講師プロフィール

### 相田 眞喜子 (あいだ まきこ) ア・ラ・カルト講座⑤ 担当

小学校で、子どもたちが試行錯誤しつつ言語を獲得していくたくましい姿に感動をもらいながら、日々、汗をかきかき授業をしています。教員を目指す大学生に指導法の実践的な講義をする機会もいただき、刺激をもらっています。語研で共に研究し切磋琢磨し合う仲間がいることはとても心強いことです。小学生の子どもたちの学び方に寄り添って、中学以降の外国語学習の下支えとなる力をつける授業づくりを、皆さんとも一緒に考える機会を頂けたら幸いです。

### 浅野 伸子 (あさの のぶこ) 英語授業の型づくり 夏期第3回 担当

農業高校から普通科進学校まで、いろいろな学力層の都立高校を経験してきました。その間一貫して心掛けたのは、英語を理解したい、使いたいという生徒の希望を尊重することです。流行に振り回されることなく基本に忠実に授業を作る姿勢を学んだ語研で、明日の授業に悩む先生方の力になれることをうれしく思っています。

### 淡路 佳昌 (あわじ よしまさ) 英語授業の型づくり 夏期第4回 担当

高等専門学校で教員生活をスタートさせて以来、インターネットやCALLを研究テーマのひとつとしていますが、現在は教科教育や授業学に重点を移しています。いったん大学を辞し、中学校で約10年勤めたあと、再び大学に戻り、現在は大東文化大学外国語学部英語学科で、静哲人先生と共に英語教員養成を担当しています。

### 伊藤 雄二 (いとう ゆうじ) ア・ラ・カルト講座⑧ 担当

石川県金沢市にある北陸学院大学人間総合学部で英語の教員養成の仕事に携わっています。昔は、毎週語研の研究会に参加して、小中高大の先生方から貴重な教をいただきました。今は遠く金沢から語研を眺めています。久しぶりに語研の講習会の講師を引き受けました。一つでも多くの授業改善のヒントを皆さんと共有できれば幸いです。英語教師としては、教室でマスクを外せる日が早く来れば、と願って止みません。

### 海崎 百合子 (かいざき ゆりこ) ア・ラ・カルト講座⑨ 担当

小学校で英語を教えて31年になります。現在、田園調布雙葉小学校で教えています。同時に日本女子大学と同大学院で小学校英語の講座を担当して、教員志望の学生や子どもの外国語教育に関心のある学生たちと学びの日々を過ごしています。

### 粕谷 恭子 (かすや きょうこ) ア・ラ・カルト講座⑩ 担当

私立小学校で英語を教え始めたら、思いのほかおもしろくてここまで来てしまいました。大学に籍を置いて教員養成の仕事をしています。卒業した学生が仲間になってくれるのがとても楽しみです。教員研修で出会う先生方と授業づくりに関われるのも大きな楽しみです。先生方にも子どもたちにも負担の少ない授業のあり方を提案できるよう、努めています。

### 草間 浩一 (くさま こういち) ア・ラ・カルト講座 ⑮⑰⑳ 担当

武蔵高等学校中学校で教え始めて30年以上が経ちました。途中英国ニューカッスル大学に留学、学習スタイルを活かしたCALL (Computer Assisted Language Learning) を研究し、PhD を取得しました。その後も個々の生徒の違いを考え続け、カウンセリング心理士 (認定カウンセラー)、特別支

援教育士の資格を取得しました。現在はUDL (Universal Design for Learning) の考え方を応用した授業実践に取り組んでいます。2018年度からは早稲田大学の非常勤講師として特別支援教育の集中講座も担当しています。

#### 久埜 百合 (くの ゆり) ア・ラ・カルト講座⑤⑳ 担当

教科教育法で青木常男先生に、教育実習で福井保先生と澤正雄先生にご指導いただいたのが出発点です。小学校英語反対論が盛んだった頃、成城学園(パーマーを招聘した澤柳政太郎が創立者)の初等学校で23年間、子どもたちに鍛えてもらいました。『ノッポさんの英語大すき』『えいごりあん2000~2001』の制作にかかわり視聴覚教材の大切さを学び、今はデジタル教材に凝っています。小中9年間の指導方法について、現場の先生方と考え合う毎日です。

#### 久保野 りえ (くぼの りえ) ア・ラ・カルト講座⑬ 担当

東京外国語大学スペイン語科卒業、拓殖大学大学院言語教育研究科修了。江戸川区立南葛西中学校に6年間、筑波大学附属中学校に26年間勤める。現在は、非常勤講師として都留文科大、東京外国語大等で、英語教員志望の学生に指導にあたる他、中学校での授業も継続している。2004年度パーマー賞受賞。

#### 小菅 敦子 (こすげ あつこ) 英語授業の型づくり 第2回 担当

元東京学芸大学附属世田谷中学校主幹教諭。この間に多数回にわたり授業を公開、のべ約100名の教育実習生を指導、NHKラジオ『新基礎英語1』(1994~1995年度)講師を勤める。現在は、東京女子大他にて教職の授業、英語指導に従事。1997年「パーマー賞」受賞。語学教育研究所常務理事。パーマー賞選考委員長。第5研究グループ(授業研究)主任。

#### 小菅 和也 (こすげ かずや) ア・ラ・カルト講座③④⑲⑳ 英語授業の型づくり 第1回 担当

千葉県立高校、東京都立高校、国立大学附属高校など、20年余り高校の現場を経験してきました。その後、大学に籍を置き、英語教員養成に携わってきましたが、武蔵野大教育学部をこの3月で定年退職しました。故若林俊輔先生にお声をかけていただいたのがきっかけで、語研には20代後半から、もう40年近くお世話になっています。教師としての自分は、語研に育ててもらったと思っています。

#### 四方 雅之 (しかた まさゆき) ア・ラ・カルト講座② 担当

成蹊中学・高等学校教諭。この道39年目。還暦を過ぎながらも、情熱的なAll Englishの授業を続ける。若林俊輔先生の薫陶を受けた古参の語研研究員の生き残り。情に厚く、若手英語教師をまとめあげる技能に優れる。2020年と2021年4月刊行の『「やり取り」の英語授業：展開事例集(1)(2)』(成蹊論叢)で監修・執筆を務め、若手英語教師の執筆を指導。「吉祥寺のジェッフ・ベック」と呼ばれ、ギターの名手。ライブハウス出演多数。

#### 静 哲人 (しずか てつひと) ア・ラ・カルト講座㉑ 担当

15年間、中・高・高専で教えた後、大学に移って24年目。大東文化大で英語教員養成にあたっています。主に音声技能の向上のさせ方に関心があり、一斉授業内の個別指導方法としての「グルグルメソッド」、実際に英語の歌を歌わせることでの発音練習、のふたつを提唱しています。主著は『英語授業の心・技・体』(研究社)。今年から学生支援センター所長なので、標語は『私、学生の味方です』。

### 砂谷 恒夫 (すなたに つねお) ア・ラ・カルト講座⑥ 担当

昭和 55 年から公立高校 6 校に勤務しました。授業では可能な限り絵や略図等を板書し、生徒にわかりやすくなるよう心がけました。意味に関することに特に興味があります。平成元年より語学教育研究所研究員になり、語研大会で「単語の意味の指導」「ALT との Team Teaching」「Tense」「中高 4 校授業で実践」等のテーマについて研究グループ発表をしました。現在は私立高校で非常勤講師をしています。

### 曾根 典夫 (そね のりお) ア・ラ・カルト講座⑨ 担当

茨城県立高校・中等教育学校で 4 校勤務したのち、2015 年より、筑波大学附属高校に勤務し、現在に至ります。検定教科書を軸にした授業を展開しています。特に、授業冒頭の 5 分間をどのように惹きつけるか、生徒視点からの授業改善に日々取り組んでいます。2017 年筑波大学にて教職実践演習を担当しました。

### 千田 享 (ちだ とおる) ア・ラ・カルト講座⑩ 担当

大学卒業後、公立の農業高校、工業高校、外国語学科のある高校に勤務し、現在は私服の普通高校で働いています。その間、セルハイ (Super English Language High School) の主担当として英語教育の改善に取り組みつつ、働きながら大学院へ通い MA TESOL を取得しました。教員 3 年目に語学教育研究所に入り、勉強をしてきました。主な共著書：高校検定教科書 *MAINSTREAM English Expression I・II* (増進堂)、『CLIL 英語で学ぶ国際問題』(三修社)

### 手島 良 (てしま まこと) ア・ラ・カルト講座⑩⑪ 担当

武蔵高等学校中学校の教員です。関心はフォニックス、文字指導、発音指導、文法シラバス。根っこにあるのは、初歩でつまづかせない指導法の開発です。大学 (非常勤) で「英語科教育法」「英語教育演習」なども担当しています。著書に、検定教科書『EXPRESSWAYS I』(英語表現 I。共著、開隆堂)、『これからの英語の文字指導—書きやすく読みやすく』(研究社)、『英語の発音・ルールブック』(NHK 出版) などがあります。

### 永井 淳子 (ながい じゅんこ) ア・ラ・カルト講座⑬ 担当

私学の中高一貫校で 5 年間英語科専任教諭として勤務したのち、東京都市大学付属小学校 (旧東横学園小学校) の英語科講師となり、気がつけば 29 年目に入りました。そのほか、青山学院大学・東京学芸大学で非常勤講師として教職課程 (小学校英語) の講座を担当しています。子どもたちや学生と過ごす時間の中で、日々、多くの刺激を受け、学びを得ることができ、感謝しています。

### 根岸 雅史 (ねぎし まさし) ア・ラ・カルト講座⑰ 担当

東京外国語大学で英語教育学を教えています。近年は、言語テストに加えて CEFR などの言語能力評価枠組みを研究しています。教員研修では、たくさんの中高の定期試験を見て、分析してきました。これまでにいろいろな検定教科書作りに携わってきましたが、現在は中学校検定教科書『*New Crown*』(三省堂) の著者をしています。

### 八宮 孝夫 (はちみや たかお) ア・ラ・カルト講座 ⑭ 担当

39 年間の教歴で、その大部分を男子校で過ごしました。中高 6 年間を通して担当した経験が 2 度あり、それを基に「私家版中高 6 年間の英語カリキュラム」を作成しました。筑波大学にて、教育実習事前指導講師を数回務めた経験があり、現場でも教育実習生をたびたび指導しています。文脈の中で、文と文とのつながりを通じて意味を考える「談話文法」にも関心があります。

### 馬場 千秋 (ばば ちあき) ア・ラ・カルト講座⑭ 担当

帝京科学大学教育人間科学部教授。語学教育研究所理事。英語を不得意とする学生にどのように英語を教えるかを考えつつ、小・中・高の英語教員養成に携わっています。専門は、英語ライティング指導と評価、英語授業学、英語リメディアル教育です。共著書に『英語教育学体系 §10 リーディングとライティングの理論と実践』(2010年、大修館書店)などがあります。

### 松原 知子 (まつばら ともこ) ア・ラ・カルト講座⑱ 担当

北陸地方の私立大学に勤めた後、東京と埼玉の大学で非常勤講師として勤務し、英語科指導法を含め、様々な英語関連科目を担当してきました。大学1、2年生を対象とする基礎英文法の授業は、これまで15年以上続けています。語研では、第22研究グループ(談話文法研究)創設以来のメンバーとして、文のレベルを超えた文法について勉強しています。

### 松沢 伸二 (まつざわ しんじ) ア・ラ・カルト講座⑲ 担当

新潟県の公立中学校、東京都の私立女子高、国立医療技術短期大学部で教えた後、現在の教育学部で英語の教員を養成しています。母校で後輩を育てているため、つつい力が入り過ぎます。学外では、コミュニカティブ・ティーチング研究会の代表幹事、関東甲信越英語教育学会会長、中学教科書『New Crown』の著者などをしました。現在は博士課程の学生の指導や地元の小中高の先生方の研修のお手伝いに力を注いでいます。

### 望月 正道 (もちづき まさみち) ア・ラ・カルト講座⑳ 担当

麗澤大学外国語学部で英語教職科目を担当しています。学生の模擬授業をビデオ撮影し、それを見ながら、学生が気がついたことを付箋に書きこみ、ボードに貼り、授業について議論する授業研究をしています。主な共著書：『最新英語科教育法入門』(研究社)、『英語で教える英語の授業: その進め方・考え方』(大修館書店)、高等学校検定教科書 *World Trek English Communication I・II・III* (桐原書店)、『英語語彙の指導マニュアル』(大修館書店)

### 矢田 理世 (やだ まさよ) ア・ラ・カルト講座 ㉑ 担当

大学卒業後、私立の中高で元気な男子集団相手に奮闘する日々から教員生活が始まりました。働きながら大学院へ通い MA TESOL を取得。検定教科書を軸に、学校でだからできることを最優先に据えて、生徒たちの個性を活かせる授業を目指しています。学校の仕事に加え、これまでに大学の教職課程の授業を非常勤で5年間担当しました。「英語表現 / 論理表現」など検定教科書の執筆もしています。2019年度パーマー賞受賞。

### 山崎 勝 (やまざき まさる) ア・ラ・カルト講座㉒・英語授業の型づくり 春期第3回 担当

語研の研究者としてオーラル・メソッドを学んで20年以上が経ちました。埼玉県で勤務して3校目になります。最近、オーラル・メソッドを基礎に、段階的な指導による無理のないアクティブ・ラーニング (CLIL・協調学習) の実践を追求しています。

### 吉田 章人 (よしだ あきと) 英語授業の型づくり 春期第4回 担当

1999年より日本女子大学附属高等学校に勤務し、現在に至る。2005年より8年間、日本女子大学にて「英語科教育法」を担当。その他、「コミュニケーション英語 I・II・III」の現行版検定教科書執筆にも携わっている。